

# 公園をみる・観る

## =セキレイは日本民族の恩人？=

今夏はとてつもなく暑かった。30度越えの猛暑日が続き、草木も枯れ果てるのではないかとと思われる日々が何日かあったが、9月に入るとストンと秋冷の朝夕がやってきた。

秋が来てモズの高鳴きも始まった。秋晴れの下「キーンキーン」と鳴く彼らの声は澄んだ空気を切り裂いて響く。モズは日本の秋を代表するトリで俳句の世界でも秋の季語だが、秋の季語となっているトリは他にもいる。この時期、全長20cmくらいのトリが長い尾を上下に振りながら園路を歩いているのを見かけることがある。スズメの仲間のセキレイもそのひとつ。

漢字では「鶺鴒」と書く。セキレイは歩くたびに長い尾が地面を叩くように見えることから「石叩き」「庭叩き」などの別名でも呼ばれている。そのほかにも「恋教鳥」とか「嫁教鳥」とか15種以上の呼び名があるらしい。水辺に棲み、昆虫やクモを餌として雌雄で仲睦まじくくらす。波型に飛びながらフライングキャッチをすることもある。公園ではセグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイの3種類が見られる。

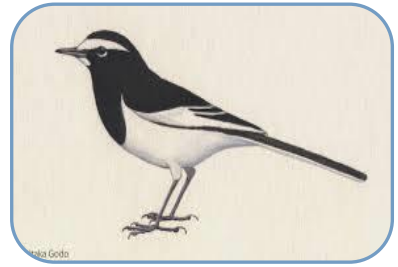
セグロセキレイは日本古来種で、なんと日本民族の恩人（鳥）なのだという。古い話になるが日本神話によると伊邪那岐命・伊邪那美命（いざなぎのみこと・いざなみのみこと）の二神がセキレイの尾の振り方をみて日本の国生みを成功させたとある。

しかし近年、その大恩あるセグロセキレイは減少傾向にあり、変わってユーラシア大陸、アフリカ大陸からのハクセキレイが幅を利かせている。ハクセキレイは環境の変化への適応力に優れ、同じ仲間のスズメやツバメさえしのぐ勢いで数を増やしているとか。

何にせよ今、人目を恐れずピョコピョコと長い尾を振りながら園路を歩くセキレイの姿が「可愛いい〜」と来園者のあいだで人気上昇中である。

鶺鴒や岩を<sup>く</sup>め<sup>る</sup>尾の力 正岡子規

(土×土)



セグロセキレイ

## Kさんの、あんなとりこんなとり

リールーリールルル♪ 海に近いご近所さんの三角屋根の上で独演会をしていたのは、頭と背中が青っぽく、お腹は明るい茶色のイソヒヨドリ。

ヒヨドリと言ってもあのヒヨドリより一回り小さく、別の鳥だそうです。浜に行くときよく岩の上などに止まっていて、近づくとスツと岩の陰に隠れてしまいます。

屋根の上のイソヒヨドリは、しばらくのあいだ良く通る声で、美しいさえずりを聞かせてくれました。無口な鳥と思っていたのでその熱唱には驚いてしまいました。